非核・いしかわ

2024年1月20日　月刊第306号

〒920-0848 金沢市京町28-8　石川民医連労働組合気付
非核の政府を求める石川の会
TEL 076-251-0014　FAX 076-251-3930
http://hikakuishikawa.com/

非核五項目
① 全人類共通の課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する
③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

核兵器禁止条約の署名は93か国、批准は69か国（1月15日現在）

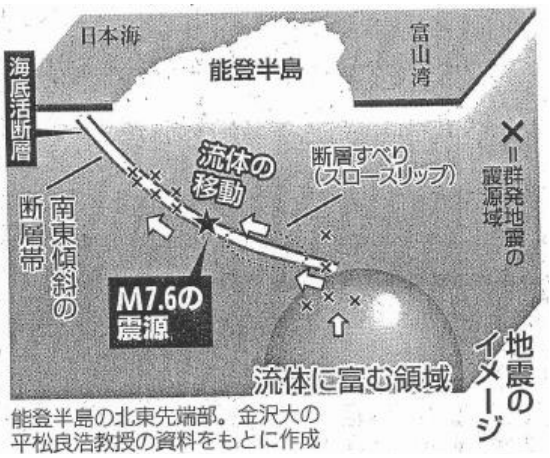
1面　私たちは災害列島に住んでいる　五十嵐正博
3面　核兵器禁止条約第２回締約国会議の宣言
4面　『はだしのゲン』と駆けた２０２３年　大田健志
5面　労働の尊厳を忘れた価値観　永山孝一
女性の低年金はジェンダー不平等の積み重ねの結果　寺越博之
6頁　平和のバトンをつないで　近松美喜子
7面　<独標>紫陽花寺にて　池田珠子
編集室より
非核・平和の掲示板
8面　戦争遺跡と平和の記念碑　佐藤公男
絵手紙コーナー　田伏久子

年頭所感

私たちは災害列島に住んでいる

代表世話人　五十嵐正博

二〇二四年一月三日、珠洲市から八時間かけて金沢に戻りました。安堵感、虚脱感、「地獄絵図」を目前にして、何も手伝うことができなかった無力感、惨状から「脱出」してきた「後ろめたさ」、それらが今も交錯しています。本稿は、本年を展望し、希望を記す「年頭所感」ではなく、大災害に遭遇した一人の記録です。



能登半島の北東先端部。金沢大の平松良浩教授の資料をもとに作成

「しんぶん赤旗」日曜版(2024年1月14日)より

能登半島地震に遭遇する

年末年始を珠洲市の友人の「宿」で過ごすのが、ここ数年の習わし。大晦日、皆で「餅つき」をし、その後「そば打ち」、ひと風呂浴びて夕食、ゲストハウスにある銅鑼の音を除夜の鐘代わりに聞きながら、年越しそばを食べて新年を迎えます。「今年こそ、世界中が平和になりますように」と。

元旦、「おせち」を食べ、昼過ぎに「初詣」。三崎町寺家にある「須須神社」へ。宿に戻り、お屠蘇に使った輪島塗の猪口（ちょこ）を戸棚にしまい、厨房にいた午後四時六分。「緊急地震速報」が鳴

能登半島地震により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます

花鳥風月

一月一日夕刻、能登半島北東部を震源とするマグニチュード（M）七・六、最大震度七の地震が発生し、輪島市、珠洲市など広範囲で家屋の倒壊、大規模火災、津波等により甚大な被害が生じた。今回の能登半島地震のM七・六は、阪神大震災（M七・三）を上回り、東日本大震災（M九・〇）、関東大震災（M七・九）に次ぐ規模の大震災である▼筆者が居住する金沢市でも震度五強を観測し、停電、断水、土砂崩れによる通行止め、墓石の落下など大きな被害があった。震源地では同規模の余震が何日間も続いている▼最大震度七を観測した志賀町にある北陸電力志賀原発（運転停止中）では、地震の影響で「外部から電源を受けるための変圧器の配管が壊れて絶縁や冷却のための油が漏れ出した」「使用済み燃料プールの水が一部床面にあふれ出た」事故が発生した（一月二日北陸電力の会見）▼志賀原発二号機は敷地内の活断層の有無をめぐり、再稼働に向けて新規制基準への適合審査を受けている最中に事故が発生した。志賀原発の重大事故の詳しい情報公開を求めると共に、震災への備えとして能登半島の群発地震の危険性が高い志賀原発の再稼働中止、廃炉に向けた世論喚起と運動の高まりを期したい。（か）

ることなく、突然の激しい揺れ（震度五強）、ガラス瓶一つが床に落下。余震が来てもこれ以下の震度に違いない、勝手な思い込みは瞬時に大暗転。「ドカン」という音とともに家全体が崩れるかと思われる激震（震度六強）、とっさに近くにあった手すりにしがみつき、身をかがめるのが精いっぱい。目前で薪ストーブが倒れ、中から燃える薪が飛び出し、煙突がはずれて落下。とっさに「水」と叫び、そばにいた人が水をかけ、大事にならずに済みました。「早く揺れが止まってほしい」と念じつつ、ウクライナ、ガザで、ミサイルがいつ、どこから落ちてくるかもしれない恐怖を共有した瞬間があったような気がします。「死」を覚悟することはなかったでしょうが、わが人生でもっとも恐ろしい、二度と経験したくない出来事でした。

避難所へ、そして金沢に帰る

皆で庭に飛び出したものの、次の心配は「津波」、宿の横にある山に登ろうとしましたが、津波は最高で五メートル程度との情報が入り、山に登らなくても大丈夫と判断し、近くの高台にある「消防署」に避難し、車中泊。車のエンジンをかけたり止めたりして（ガス欠を防ぐため）寒さをしのぎました。

翌日（二日）明け方、明かりのついた消防署の建物の片隅でしばし体を休め、携帯の充電もできました。宿の様子を見るため、宿に戻りました。建物の外観は無事、散乱した食器などの掃除をし、備えてあった食材を玄関に集めました。大きな「薪ガマ」は無事で、客の一人（イタリアンシェフ）の手になるリゾットを庭で立って食べました。

ぼくたち夫婦と金沢から来たもう一人の三人で、避難所に指定されている近くの「上戸小学校」に行くことに。幸い、教室の片隅に一人当たり「座布団三枚と毛布一枚」を与えられ、小さなおにぎり一個、わずかの煮物が夕食。自宅の様子をも顧みないで献身的に救援にいそしむ地元の人々。水も電気もない、暖は灯油ストーブだけの一夜を過ごしました。

三〇年前、原発建設に反対して闘った珠洲の友人たちの安否が心配されました。定宿の主人は、反対運動に関わった友人。被害が特に大きかった高屋、三崎地区。電力三社は、ここに原発四基の建設を強行しようとし、住民が、市役所内に泊まり込んでまで建設を阻止しようとした闘いでした。原発が建たなくて本当に良かった、決して大げさではなく、「この国を救った歴史的な闘い」として記憶されなければなりません。

夜中（二時半ころ）震度五弱の地震。夜が明け、避難所で隣になった家族が、「金沢まで行けるらしい」と準備を始めました。もともと地元の方らしく、土地勘もありそうなので、付いていくことに。七時半出発。道は、陥没、地割れ、隆起、土砂崩れ、倒木がいたるところに。そして渋滞。対向車線は、緊急援助に向かう他府県からの、それぞれ数十台の車列が続いていました。

「普通に生きられること」の大切さ

平和に生きる権利

私たちは「災害列島」に暮らしています。「災害は忘れたころにやってくる」どころか、次々に襲う台風、水害、地震。人間が自ら作り出す「地球環境破壊」。戦争は「悠久の歴史の中で、人間がごく『最近』創り出したもの」であるから、人間が戦争を止めさせることができます（佐原真『戦争の考古学』）。

しかし人知で地震を防ぐことはできないとすれば、事前事後の体制が問われます。地震予知研究の進展、発生後の救援体制の整備。フクシマなどの教訓が活かされたのか否か、たった二晩の避難所生活をしただけでも、私たちは、どう生きるべきか考えさせられました。

一言でいえば、「普通に生きられること」の大切さ、ありがたさ」です。「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」が保障される毎日です。「自己責任」を優先し、「合理化・効率化」の名のもとに「格差社会の拡大」を推し進める「新自由主義」が生み出してきたのが「普通に生きられない社会」ではなかったか。

「経済成長」を求めることをやめなければなりません。「身を切る改革」でなく、「無駄を大切にし、何事にも余裕をもたせる」、「無駄と思われる多様な選択肢を用意しておく」。「無駄」という言葉に否定的なニュアンスがあるとすれば、「今、必要ないこと」と置き換えてもいいでしょう。度重なる災害の教訓、「今は必要ないライフライン」の整備がいかに大事か分かっていたはずです。

軍事同盟を解消し、あくまで「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼」する平和外交を展開、追及することが「日本国憲法」の要請です。軍拡でなく、軍備の削減、廃棄を追及し、莫大な「（人殺しのための）軍事費」を、「皆が普通に生きられる社会」造りに転用しなければなりません。被災者の方々に心を痛めるしかできない今、自己嫌悪するばかりです。

七五歳を明日にして。

核兵器禁止条約第２回締約国会議の宣言（要点・抜粋）

2023 年 11 月 26 日から 12 月 1 日までニューヨーク国連本部で核兵器禁止条約第 2 回締約国会議が開かれ、最終日に宣言「核兵器の禁止を堅持し、その破滅的な結果を回避するための私たちの誓約」が採択されました。宣言文の 35 項目のうち主要点を抜粋して紹介します。（注① 小見出しは編集部作成）

（6）核兵器の非人道性が引き続き焦点

「核兵器の影響に関する証拠に基づき政策立案をするプロセスは、核兵器禁止条約創設の土台であり、核兵器廃絶に関するすべての決定と行動の中心でなければならない」

（10）人道的アプローチが核兵器禁止条約を誕生させた

「核兵器がもたらす壊滅的な人道的結果とリスクが、核軍縮のための道徳的・倫理的要請と、核兵器のない世界の実現と維持の緊急性の基礎にあり、何よりそれが、本条約創出の動機となり、条約履行を導いた」

（11）被害者支援・環境の回復へ

「私たちは、ＴＰＮＷの積極的な義務によることを含め、核兵器の使用と実験の害悪に取り組むことへの支持を再確認する」

（14）禁止条約は核兵器使用の手を縛っている

「核兵器のいかなる使用や威嚇は国連憲章を含む国際法違反であり、..核の威嚇に対して、明示的であれ暗示的であれ、いかなる状況下であろうと、明確に非難する」

（17）核抑止論は核軍縮への前進を妨害する

「核抑止を正当な安全保障のドクトリンとしてあらためて提唱し、主張し、正当化しようとする試みは、国家安全保障における核兵器の価値に誤った信用を与え、水平的・垂直的な核拡散の危険性を高めている」

（19）核抑止論からの離脱は急務

「軍事・安全保障の概念、ドクトリン、政策における核抑止の永続とその実行は、核不拡散を損ない、矛盾するだけでなく、核軍縮への前進を妨害する」（注②）

（25）禁止条約とＮＰＴ、ＣＴＢＴ、非核兵器地帯条約との相互補完性を強調

「私たちＴＰＮＷ締約国は、全面的に NPT へコミットする締約国として、ＴＰＮＷやＮＰＴの補完性を再認識する。私たちは、ＮＰＴの下での義務を履行し、責任、約束、合意を順守し続ける」

（33）国連・各国政府・市民社会の協同を強めることが重要

「私たちは、多様な利害関係者が果たすべき役割を認識し、国際機関、国会議員、市民社会、科学者、核兵器の影響を受ける地域社会、核兵器の被害者、金融機関、そして青年との包摂的アプローチによる協力を継続する誓いを新たにする」

（35）「核兵器のない世界」を実現するため〝不断の努力〟を誓約

「私たちは、現在および将来の世代のために、核兵器のない世界を実現するために不断に努力する。われわれは、いかなる状況下においても、核兵器が再び使用されたり、実験されたり、あるいは使用の威嚇にさらされることがないよう誓約し、そして、その完全廃絶まで休むことはない」

＜注＞① 1 月 8 日、東京都内で開かれた非核の政府を求める会・2024 年新春シンポジウム「核廃絶か核抑止か―前進する核兵器禁止条約、問われる被爆国の責任」の配布資料

② 次回、2025 年第 3 回締約国会議までに「核抑止力」論からの脱却を訴える報告書を被害者や専門家も含めて議論・作成することが決定された。

『はだしのゲン』と駆けた二〇二三年

大田健志

昨年をふり返ると、ひたすら『はだしのゲン』とともに駆けめぐった一年でした。この度、紙幅をいただいたので、はだしのゲンをひろめる会として、私個人としての振り返りをここに綴ります。駄文ですが、お付き合いください。

■ 記念企画in広島、金沢

記念企画自体は本紙掲載済みですので割愛しますが、まずは五〇周年記念企画実行委員会の始動について。一昨年末に第一回会議が始まり、私としては何が何やらという雰囲気も残る中、徐々に実行委員も増えて、記念企画の具体化が進みます。と言ってもコロナも五類になる前、暗中模索です。

そんな昨年二月、企画の大筋ができあがってきたかというところで舞い込んできたのは、広島市教育委員会による「ひろしま平和ノート」からの掲載削除。今を思えば、この窮地が、逆に転機となり五〇周年が大いに盛り上がったと感じます。

石川含めて各地から削除するな！の声が出る一方で気を付けるべきは、ゲンを禁忌としてはいけないことでした。問題が大きくなる中で、ゲンが政争の道具になってしまい、教育現場にとって今後触れづらいものになってしまっては、元も子もないというわけです。だからこそ、私たちとしてはゲンを実行委員会の主義主張の道具に成り下がることのないよう、純粋にゲンの魅力と故・中沢啓治先生の思いを広める企画づくりを心がけ、翻訳者によるトークイベント、広島でのフィールドワーク、映画上映会の三本立てで五月～六月に開催しました。先の世論の高まりも受けて、当初集客に悩んでいたのが嘘のように、事前札止めするほどの注目を集め、大成功のうちにイベントを終了することができました。

反核医師のつどい in 北海道・展示コーナー

■ 北海道、そして沖縄まで

その後もゲンが世間を席捲します。売上が十倍増だとか、実行委員メンバーでもある中国語版の翻訳者、坂東弘美さんへの取材がNHKはじめ各所で取り上げられるなど、昨夏、毎日のようにゲンを取り巻く報道が続き、金沢でも八月にシネモンドでの映画上映と、ひろめる会主催トークイベントを開催。これに限らず、私たちが関わらないものでも、静岡、長野など各地で上映や展示に取り組まれていたのもとても嬉しいことでした。

さて、これで一息と思ったのも束の間。ここからまさかの北から南です。昨年九月下旬、核戦争に反対する医師の会が主催する全国のつどいが札幌市で開催されたのですが、主催者からのオファーで、会場で五〇周年パネル展示を開催。さらに、一一月から一二月には、沖縄市コザにある「シアタードーナツ・オキナワ」にてドキュメンタリー上映とトークイベントが複数回開催され、第二回トークライブでは監督の石田優子さんに加えて、坂東弘美さん、朝鮮・韓国語版翻訳者の金松伊さんと私が登壇し、ゲンの持つ魅力や意義を語りました。北は札幌、南はコザまで、実に三千キロメートルのゲンとのランデヴーでした。

シアタードーナツ・オキナワにて
(2023年12月12日、右端が筆者)

■ ゲン五〇周年は続く

大変ありがたいことに北海道、沖縄の企画を通じて、はだしのゲンをひろめる会への新規入会者も二桁に上るなど、広島に限らず全国、全世界で、どれほどゲンが愛されているのか身をもって体感。逆境を切り開く力、圧力に屈しない勇気、そして踏まれても踏まれてもまっすぐに伸びる麦の精神。まさにゲンに引っ張ってもらった一年でした。

ちなみに、実行委員会では、本年三月末までを五〇周年記念の年と位置づけているんですよ。大小問いません。これを読んでいるあなた、企画とかどうですか？

最後になりますが、さらなるゲン関連企画の実現、気運の向上、なによりゲンの一読、再読を心より呼びかけます。（NPO法人はだしのゲンをひろめる会）

◆新春寄稿◆
労働の尊厳を忘れた価値観

永山孝一

二〇二四年は元日から、能登半島地震に見舞われるというかつてない幕開けとなりました。わが『非核・いしかわ』の近年のコラムを振り返ろうと、七年前の『花鳥風月』を覗いて見ると、――

いつの時代でも価値ある建築芸術は、子どもの手に掴まれた糸がするすると伸びて大空に凧が上がるように、それを大地に引いている糸の緊張によって芸術の世界に飛翔したのである。時に、糸を断ってひとときの自由を求めた建築作品もあったが、その弱々しい光彩はたちまち消え失せてしまった。（山本学治『現代建築論』一九六八年）▼その時代の、人間生活全体に強く結びつけられた糸の緊張――私にとっても座右の銘であり、今日では社会のあり方への警告でもある。先月「新国立競技場建設現場で働く新入社員自殺、厚労省が実態調査へ」の報道に厚労相は「建設業は時間外労働が青天井の世界」と語ったが▼「近代産業の全歴史がしめしているように、資本は、もしそれをおさえるものがなければ、むちゃくちゃに情容赦もなくふるまって、全労働者階級をこの極度の退廃状態におとしいれる…」と述べたマルクスの国際労働者協会中央評議会での講演は一八六五年。わが国が明治維新に向かう「安政の大獄」の頃▼いま、バブル崩壊から二六年を経過した日本社会では、「人間発達の場」である筈の時間が「人間絶望の空間」となって、多くの青年の行く手に立ちはだかる。

（二〇一七年八月二〇日発行）

＊　＊　＊

冒頭に紹介した山本学治氏（東京芸術大学教授）は新建築家技術者集団石川支部主催の建築講演会（一九七一年五月北陸信用金庫ホールで三〇〇名を超える超満員）で講演された。講演後の質疑応答で、原発の建設に関わっている技術者と思われる青年の質問に応答した山本学治氏の「…傷つき易い心を持ち続けることが大切」とのアドバイスが忘れられない。

先のコラムに「バブル崩壊から二六年」経過とあるが、いま「失われた三〇年」といわれる日本で、最も受け入れ難いのは「非正規労働」という表現だろう。こうして「人間労働への尊厳」を忘れ、企業利潤の獲得を至上とする歪んだ価値観は、かえって日本経済の発展をゆがめ、遂には地球環境の温暖化が地球沸騰に至るまで、人間の住めない地球へと人類を誘うのです。

（本紙編集委員）

2.11建国記念の日反対「平和と民主主義を考える集い」

ドキュメンタリー映画　しでばら　上映

（幣原喜重郎 生誕150年記念事業実行委員会制作）

日　時	2024年2月11日（日）14：00～15：30
会　場	金沢市近江町交流プラザ4階研修室1
参加費	500円
主　催	石川憲法会議・教科書ネット・県民教育文化センター・石川県平和委員会
賛同団体	石川県宗教者平和協議会・戦争をさせない石川の会

非核石川の会リレーエッセー

女性の低年金はジェンダー不平等の積み重ねの結果

寺越博之

先日、七五歳の女性からの相談が寄せられた。彼女は、無年金で離婚後、二つのパートを勤めて、月八万円で暮らしてきた。二つの仕事をするにも車が不可欠。車があるので生活保護の利用は難しく、一人で悩んできた。年金は一〇年前、「年三〇万ぐらいあたる」と通知が届いたので、年金事務所を伺い、相談したが、冷たい対応で、「自分はもらえない」ものと思ってきた。友人の社労士につなげて年六〇万円、過去五年分三〇〇万円が支給されることとなった。そのことを報告する時、彼女は電話口で泣いていた。

現在、「おひとり様」が急増している。女性の「おひとり様」は、紹介した彼女のように、経済的にも大変深刻な実態にある。女性の多くは低年金だからである。

1．女性の低年金の要因

女性の「年金受給者」の二六％が「平均月額五万円未満」であり、女性の「年金受給者」の八五％が「平均月額が一〇万円未満」である。このように女性

の多くは老齢年金において、女性の人権を否定するような低年金となっている。これでは女性は自立した生活を営めない。女性は人生の最終盤に、現役持代にまして、厳しい生活を余儀なくされている。

女性の低年金構造は以下の三点から構成されている。①「女性の年金受給者」の二五％が著しい低年金の「基礎年金のみ」であること、②「女性の年金受給者」の五二％が同じく低年金の「通算老齢・二五年未満の受給者」であること、③「女性の年金受給者」の二一％が「厚生年金受給者」であるが、その平均年金月額は一〇万四千円（男性一六万三千円）」であること。

女性は現役時代に賃金差別、昇級・昇任からの排除、仕事内容の差別、雇用の中断、出産・育児にかかわる不利な扱いなどを余儀なくされてきた。これらこそ、政治の責任で本来解消されるべき事項である。

ところがそのジェンダーギャップの解消が図られてこない上に、現役時代のジェンダーギャップがそのまま、女性の老齢年金に反映しているのである。

2．女性の年金の抜本的改革の方向

「高齢女性の貧困」「年金給付に関するジェンダーギャップがもたらす生活水準格差」などは人権問題である。高齢女性の人権はないがしろにされている。この人権侵害を解消するには、①女性の低年金は日本社会のジェンダー不平等の積み重ねの結果であるという認識を共通認識にすること、②その認識を周知・徹底すること等が必要である。

低年金で不安に駆られ、日々暮らしの困難に悲鳴をあげている多くの高齢女性に、「女性の低年金は、貴方の責任によるものではなく、我が国によるジェンダー不平等の積み重ねの結果である」と知らされたならば、多くの女性が声を上げ、立ち上がるであろう。そこに、我が国の社会保障としての年金制度、人権の一つとしての年金制度改革の展望があると思う。

＊「通算老齢年金・二五年未満」受給権者とは、厚生年金の加入期間が短くて、国民年金の加入期間が長い女性たちである。

平和のバトンをつないで

近松美喜子

一二月八日、八二年前日本がハワイの真珠湾を奇襲攻撃し、第二次世界大戦へ引き金を引いたその日です。全国母親運動の連鎖行動に連帯して赤紙を配りながら、二度と戦争で誰の命も失いたくないと街頭に立ちました。とりわけロシアのウクライナ侵略、イスラエルのガザ自治区攻撃が広がっている今。ロシアはウクライナから撤退せよ。イスラエルの即時停戦を求めて声を上げるとき。一昨年二月ロシアが公然とウクライナに侵略を開始したニュースに「まさか！」と思いました。二一世紀に入って、こんなことが繰り返されるの？長くは続かないはず。国際世論が国連を動かし止めると。

しかし、戦闘は未だ終わらず、お茶の間に届く凄惨なニュースは二年になろうとしています。そのうえイスラエルのパレスチナ・ガザ地区への軍事侵攻でジェノサイドの危機が迫っています。一般市民が特に子どもたちの命が奪われ続ける事態がこれまた日常のように茶の間に送られています。一刻も早い人道的停戦を求めた交連の特別決議がアメリカの拒否権発動で否決される事態に暗澹たる思いです。

国際法も国連も無視したこのような無法がまかり通ることが信じられず怒りでいっぱいです。

国内では天井知らずの物価の高騰、マイナンバーカードの強制、紙保健証の廃止、インボイス制度導入、挙句は社会保障削減と消費税増税で、大軍拡となればいよいよ戦争が現実のものに。しかもロシアの核兵器使用も示唆する発言に、怒りの声を上げるどころか日本の核武装まで飛び出し戦争する国へ暴走する岸田内閣。

かつては戦争反対を言うことも大切な人を戦争に取られても泣くことも許されなかった歴史を繰り返させてはならない。いま主権者は私たち。「子どもたちに平和な未来を」と訴える母親運動の先輩から引き継いだバトンを守り次世代につなぐのが、今を生きる私たちの責任と思いを新たにしています。

平和と民主主義を求める 第25回新春のつどい

語りと生演奏によるコラボレーション

朗　読　　谷口善太郎・短編小説「お千代」

語り手　奈良井伸子

ミニライブ　雪のちゃんぷる・コンサート

日　時　2024年1月27日(土)14:00～16:00

会　場　石川県平和と労働会館3階ホール

参加費　団体分担金 2,000円　個人 1,000円

主　催　新春のつどい実行委員会

連絡先　076-231-3199(県労連)

詩人会議かなざわ「独標」より

紫陽花寺にて

池田珠子

地元ニュースで取り上げていた
紫陽花寺に友と向かった
車を降りた直ぐ
山門までの長い階段の両脇は
観光ポスターそのもの
本堂裏山に続く迫る崖にも
田畑や民家が見渡せる
なだらかな境内
参道を覆い　埋め尽くすように
色とりどりの紫陽花が美しい
小雨に差している人たちの傘とも
調和しシャッターを押す

汗ばんだ額を拭った　その時
「あっ」
ゆらりと景色が歪み揺れた
波と一体化したような
不思議な　目眩
子供の頃から現れる　感覚
一瞬の夢心地
夏休み　宿題を広げていながら
激しい油蝉を聴きながら
違う世界に
燃え盛る炎をじっと見つめている時
絶え間なく降り注ぐ粉雪を見上げて
いると
轟音で飛沫をあげ落ちる滝の近くで
通夜　荘厳な読経が響く最中にも

その時も　突然
あの感覚がやってきた
数え切れない紫陽花に囲まれて
ゆらり　左右　逆さまになったまま
空中に浮かんでいる
もう一人の
私

これは自分だけなのか
ただ訳もなく
遥か宇宙を想う

編集室より

◎〝一年の計は元旦にあり〟なら、やり切れない年始。地震に加えて羽田事故、辺野古強行、裏金、万博、改憲、陸自靖国参拝、米英軍イエメン攻撃、台湾総統選など枚挙に暇がなく、重要な事案が見え辛くなっている。しかしここでは本会報の主旨を鑑みて、以下記載。

国連総会は一二月の本会議で、軍縮・国際安全保障問題を扱う第一委員会に付託された五六本の決議を採択しました。そのうち主に核兵器を扱った決議は二一本。決議「核兵器禁止条約」は約六割が賛成（日本政府は反対）して六年連続、決議「核兵器の人道的結果」は九年連続（同賛成）、決議「核兵器のない世界への道徳的な責務」も九年連続の採択（同棄権）となりました。

日本政府が毎年提出している核兵器関連決議も、採択されたものの「使われないよう努力を促す」とするだけで具体的な行動を迫るものではなく、多くの国が不同意の態度を示しました。

二〇二三年は、ウクライナ侵略を続けるロシアが核の威嚇を繰り返し、ガザ攻撃を激化させるイスラエルの閣僚が核使用を「選択肢」と発言するなど、世界は緊張を強いられました。

しかしその一方、広島と長崎の市長が平和式典で「核抑止」論からの脱却を訴え、九月のG二〇首脳会議では、「使用と威嚇は許されない」との宣言をロシアも米国も受け入れて採択され、年末の第二回締約国会議でも〝完全廃絶まで休まず不断に努力する〟政治宣言が採択されました。このことは核兵器禁止条約の法的な規範力と、各国の政府・市民社会の力が合わさって生み出した人類史上、貴重な前進です。

二四年が核兵器廃絶をさらに促進する新しい時代になりますように。（中）

非核・平和の掲示板

1	20	土	13:30	北陸原水協学校in福井／講師　土田弥生さん	金沢市京町・石川民医連会館3階会議室＋オンライン併用
	21	日	12:30	核兵器禁止条約発効3周年記念・署名行動	金沢市青草町・近江町いちば館前
	27	土	14:00	平和と民主主義を求める新春のつどい／朗読：奈良井伸子さん、ミニライブ：雪のちゃんぷる	金沢市昭和町・平和と労働会館3階ホール
2	10	土	13:30	石川県社会保障推進協議会・新春社会保障講演会／講師：則武透さん	金沢市鞍月2丁目・石川県地場産業振興センター＋オンライン併用
	11	日・休日	13:30	平和と民主主義を考えるつどい／ドキュメタリ―映画「憲法9条の発案者　幣原喜重郎」上映	金沢市青草町・近江町いちば館4階研修室
	24	土	18:00	石川県保険医協会・総会記念講演／講師：上野千鶴子さん	金沢市三社町・石川県女性センター・ホール
	28	水	14:00	被災70年　2024年3・1ビキニデー（～3月1日）	静岡県焼津市・焼津市民会館ホール、外

＊会報「非核・いしかわ」サポート会員を募集中です。年会費 2,000円

戦争と平和の記念碑 ⑬
満蒙開拓(2)

佐藤公男

西海村分村恵陽開拓者慰霊碑

一九四〇年入植と同時に「西海村分村恵陽開拓団」を結成、敗戦時、男の大半は南方戦線に徴兵されて不在、逃亡・略奪・抑留と事態は急変し、六〇人の団員と女・子どもが取り残された。開拓団五一七人のうち三五三人が犠牲となった。

珠洲市馬緤町春日神社境内

笠間日輪舎とその跡地

一九三八年七月笠間小学校付属建物として白山市笠間村の松本浜に建てられた日輪舎は「浜風舎(ひんぷうしゃ)」「日の丸兵舎」と呼ばれた。「浜風舎」は一九五五年に老朽化で取り壊されたが、一九九一年松本町内に白山市日輪体育館として再建され、体育施設として利用されている。

笠間日輪舎＝笠間公民館提供

笠間日輪舎の跡地

白山市日輪体育館

二〇町歩の大地主、希望を抱いて海を渡った人々は、国に見捨てられ、地獄を生きた

国の政策に振り回され、終戦とともに難民となり、本土に引き揚げる途中で多くの命を失った。親が亡くなり、家族とはぐれ、子どもたちの多くが現地に残され「残留孤児」となった。

農業移民は帰国したものの「満州乞食」と呼ばれ、帰る家も場所もなかった。敗戦時の混乱の中で、農業移民による開拓団は全て崩壊した。これが一九三二年の満州国建国以降、国が推し進めた「満州農業開拓移民政策」の結末であった。

（「平和工房・江沼の郷」主宰）

絵手紙コーナー

金沢医療生活協同組合
絵手紙班　田伏久子